



ユネスコ 世界寺子屋運動

リーフレット制作 プロジェクト



リーフレット制作に加え、リーフレットを活用したボランティア活動が行えます。各学校の募金や書きそんじハガキ回収による収益をプロジェクト参加校全体でまとめ、日本ユネスコ協会連盟により、実際にカンボジアに寺子屋を開設します。教室での学びが、社会貢献活動につながり、そして地域のユネスコ協会など社会とつながる実感が得られる、シンクグローバル・アクトローカルなホンモノ体験のプロジェクトです。プロジェクト活動のプロセスにおいて、子供達の主体的で対話的な深い学びによる、人間性の伸長など、今日的な資質・能力の育成をめざすカリキュラムデザインの教育実践研究です。

プロジェクト概要

○ユネスコ世界寺子屋運動の調べ学習

世界には、文字の読み書きができない人（非識字者）が8億人ちかくもいるという実情を学習し目の当たりにすることにより、子どもたちにリアルで必然性のある課題を与えられる。支援の目的意識や相手意識（支援する国や人々）を持った活動ができる。

○支援するリーフレットの制作

相手意識や目的意識（リーフレットを手渡す相手）を持って、独自の発想や工夫してリーフレット制作を行うことで、言語活動の充実につながり、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力を育成する。

○ボランティア活動

制作したリーフレットは作品ではなく、実際に役立てるホンモノである。

教室での学習と社会とのつながりが実感でき、身につけた能力を如何に活用するかを考えるキャリア教育や人権教育にも通じる活動である。



プロジェクトのゴール

<活動のゴール>

リーフレットを制作し、それを活用したボランティア活動を行う。

<学びのゴール>

リーフレットによりユネスコ・世界寺子屋運動について適切に伝えることができるとともに、自らの伝えたい思いをリーフレットで効果的に表現することができるよう、意図的に思いに沿ったイメージの写真を選択・加工したり、イラストで表現したり、キャッチコピーを吟味して創作したりすることができる。

メディア創造力の到達目標C-2. 表現の内容と手段を吟味する力の育成を狙って、目的に応じて表現手段の選択・組み合わせができるようになることを中心に取り組む。

2019年度の計画について

5月～	参加校募集開始
6月30日	参加申込受け締め切り 参加が決まった学校は、プロジェクト専用のメーリングリストに登録します。
7月～	調べ学習開始（日ユ協連からの資料送付・貸出資料受付開始） 「ユネスコ世界寺子屋運動」について調べます。ウェブサイトや参加校に提供される映像や資料などを通して、学校に通えない子どもや文字の読み書きができない人びとが世界にはたくさんいることなどを学びます。そして、なぜそのような状況が生まれるのか、世界が抱える問題を探ります。
9月～10月	リーフレットづくり <必須> 調べ学習や、「教員対象カンボジアスタディツアー」の帰国報告を踏まえて児童生徒が自分たちに何ができるかを考え、一つの方法として書きそんじハガキの提供を呼びかける「リーフレット作り」を実践します。リーフレットは、手書きでラフスケッチを描いてリーフレットのデザインを練った後、パソコンで仕上げます。
11月～12月	リーフレットのブラッシュアップ グループやクラスの中で、他の人から意見をもらったり、お互いに評価し合いながら、一度作ったリーフレットをさらにブラッシュアップします。実際に社会で使われることを想定して、キャッチコピーや写真のレイアウト、色合いなどにも気をつけます。
12月下旬	教員対象カンボジアスタディツアー プロジェクト参加校教員(予定・7名)が、日本ユネスコ協会連盟現地事務所や寺子屋を訪問し、子どもたちや現場の関係者との交流を通して、世界寺子屋運動の意義や課題への理解を深めます。 帰国後は、プロジェクトのメーリングリスト等を通して、今年度の参加校に共有していただきます。
1月15日	リーフレット 代表作品提出 <必須> リーフレットが完成したら、校内で代表作品を2作品まで選び、リーフレットコンテストに出品します。(作品はデータで提出)。
1月下旬～	書きそんじハガキ集めの活動 <可能な限り実施をお願い致します> 自分たちで作ったリーフレットを実際に活用し、書きそんじハガキや募金を呼びかけます。社会に働きかける体験を通して行動力を身につけます。
2月1日～28日	リーフレットコンテスト(インターネット上での一般投票) <必須> 各学校の代表作品を日本ユネスコ協会連盟のホームページに掲載し、参加校はもちろん一般の方にも投票してもらいます。コメントを記しての投票で、活動の振り返りになり、言語活動の充実につながります。
3月上～中旬	審査員による2次審査、受賞作品発表 インターネット投票結果の上位作品を対象に、審査員による2次審査を行い、受賞作品を決定します。 ハガキをユネスコ協会へ(感謝状の受け取り) 近隣にユネスコ協会がある場合、学校で集めた書きそんじハガキや募金をユネスコ協会に手渡し、ユネスコ協会から感謝状を受け取ります。
約1年後	子どもたちの活動が形に! 書きそんじハガキや募金などを集めてくれた参加校に対しては、学校名を入れた銘板(他参加校との連名)を、新しく建設する カンボジア の寺子屋に設置します。

エッセンス

6～8月 ■調べる・考える

「世界寺子屋運動」について日本ユネスコ協会連盟Webサイトなどで調べ学習を行う。

9～11月 ■表現する

リーフレット制作開始

リーフレット相互評価・学校間交流 ※メーリングリストで交流校募集可能

12月～1月 ■まとめる・行動する

「世界寺子屋運動」支援ボランティア活動の計画立案

書きそんじハガキ回収活動など支援活動開始

各校代表リーフレットを日本ユネスコ協会連盟へ提出

2月 ■発信する

各校代表リーフレットによるWeb上コンテストを開催（投票に参加）

書きそんじハガキを地域のユネスコ協会に贈呈 ⇒ 感謝状授与

身につける力

- ・調べ学習（UNESCO、日本ユネスコ協会連盟、貧困問題、識字問題など）
→読解力、情報活用能力
- ・リーフレット制作と相互評価
→考えをまとめる力、表現力、デジタルデザイン力、プレゼンテーション力
- ・書きそんじハガキ回収活動、募金活動
→コミュニケーション力、行動力、社会に働きかける力



メディア創造力到達目標

1:導入場面で「A-1-Lv5」

A 課題を設定し解決しようとする力 社会とつながりを意識した必然性ある課題を設定 Lv5: グローバルな視点をもって、多く人にとって必然性ある課題を設定できる。

2:リーフレット制作場面で「C-2-Lv3」

C 表現内容と手段を吟味する力 目的に応じて表現手段選択・組み合わせができる
Lv3: 相手や目的に応じて、図表や写真など表現手段を意図的に選択することができる。

3:支援活動場面で「D-3-Lv3」に迫る。

D 相互作用を生かす力 他者と関わりから自己を見つめ学んだことを評価できる
Lv3: 他者との関わりを振り返り、自己改善点を見つめ直すことができる。

生徒の学び

現代社会の成り立ちを理解するための幅広い知識と深い洞察力 (人文科学の幅広い知識やそれを用いて 現代社会を深く理解する力) 実社会に必要な高度な技能 (情報を集め、活用する力、批判的に考える力、問題を解決する力、議論する力、創造力、他者と協力する力)が身に付いた。「現代社会を生きる市民」としての意識と責任感 (社会の課題・多様性・相互依存関係を認識し、市民として社会に積極的に参加する意欲や責任感)が身に付いた。 実社会に必要なスキル(ディベート、討論、プレゼンテーション、レポート・小論文作成など)を習得した。グループワークやプロジェクト学習を通して、生徒同士が協力し、互いに学び合う、高め合う姿勢を育むことができた。

教員の学び

参加型・プロジェクト型・講義型など様々な授業スタイルを展開することができた。IB(国際バカロレア)などの海外の教育にヒントを得た豊富な独自科目を設置することができた。BYOD や貸し出しされるデバイスやデジタル教材などを使った楽しく分かりやすい授業ができた。

今後に向けての課題

これまで以上に一人一人の行動が大事であり、世界はつながっていて、未来に向けた一人ひとりの考えとアクションがサステナブルな未来の社会をつくることに気づき、目指す社会に自分はどんなことができるか、どんな課題があるかを自分事として考え、そしてそれを行動にうつすための学びの力 リキュラムの構築が必要です。また 課題となっている事象—他者や自然との関わり—を根本的に捉え直すための既存の価値観の組み立て直し」をすることで 新たな価値観が生まれることに気づき、 それを受け入れ、自分自身の中に多様な価値観を生み出す手立てをさらに実施することが課題です。

参加校に対するサポート

1. 資料提供

リーフレット制作に必要な支援地（2016年度はカンボジア）の写真画像や当協会連盟のロゴマークなどの著作物をご提供します。

2. 貸し出し物

「ユネスコ世界寺子屋運動」を学ぶための「カンボジア学習キット」などを、無料で貸し出しします。1校につき年間1回。

3. 地域ユネスコ協会や過去のスタディツアー参加経験者とのマッチング

学校の近隣のユネスコ協会過去のスタディツアー参加者との連携をサポートします。参加校からのご希望に応じて、「出前授業」や「書きそんじハガキ／感謝状贈呈式」に、対応できるユネスコ協会関係者をご紹介します。

「出前授業」・謝金のご用意は必要ありませんが、交通費のご負担をお願いします。「贈呈式」・・・交通費は当連盟で負担します。

4. メーリングリスト

参加校の先生専用のメーリングリストを設けます。

本プロジェクトに関するご連絡をはじめ、リーフレット制作に関わるコンピューター操作などの技術的なご質問、リーフレット作りのコツ、授業方法などについて、参加校同士の情報交換が可能です。

5. 「教員対象カンボジアスタディツアー」の実施と実績の共有

世界寺子屋運動の学びをより深めることを目的に、プロジェクトに関わる教員が現地を訪問するスタディツアーを実施する場合があります。参加者には帰国後、メーリングリスト等を通して、現地での学びを発信していただきます。

特典

受賞作品の作者には賞状を、またその他の学校代表作品の作者には日本ユネスコ協会連盟より感謝状を贈呈します。

リーフレットコンテストに代表作品を提出し、書きそんじハガキの回収や募金活動で「ユネスコ世界寺子屋運動」にご協力いただいた学校は約1年後、支援地のカンボジアに新しい寺子屋を建設した場合、銘板に学校名が記載されます。



その他

リーフレットコンテストで最優秀賞に選ばれた作品は、次年度の連盟

公式リーフレットの素案として採用され、全国の「書きそんじハガキ・キャンペーン」で活用されます。

リーフレットコンテスト

・各参加校の代表リーフレットをインターネット上に公開し、一般投票を行った後、審査員による選考を経て受賞作品3点（下記）を決定します。



・受賞作品・・・A3の「賞状」をお送りします。

1) 最優秀賞 「日本ユネスコ協会連盟賞」

次年度の当連盟「書きそんじハガキ・キャンペーン」の公式リーフレット素案として活用されます。

2) 優秀賞 「Dプロジェクト賞」、「教育新聞社賞」

・奨励賞 受賞作品以外の各校代表作品・A4の「感謝状」をお送りします。

■参加条件

1. コンピューターを利用して、「世界寺子屋運動」を支援するリーフレット制作が可能なこと。（使用していただくソフトの指定は特にありません。）

2. 各校の代表リーフレット（2作品以内）を1月初旬までに提出できること。

3. 参加について学校長の承認を得ること。

（参加校名、参加生徒名が Web サイトなどで公開されるため。記載される参加生徒名にイニシャル等を用いる場合は、別途ご報告下さい）

4. 担当教員は、本プロジェクトのメーリングリストに登録し、Eメールでの連絡が可能なこと。

（本プロジェクトに関する諸連絡は、メーリングリストを通じて行います。）

5. D-Projectからのアンケート（授業の進め方などについて 年2回程度）への回答をお願いします。

■参加申込方法

日本ユネスコ協会連盟・寺子屋リーフレット制作プロジェクト係まで、以下の必要事項を明記の上、Eメールにてお申し込みください。

<必要事項>

1. 学校名
2. 学校住所

3. 学校TEL
4. 校長名
5. 担当教員名
6. 担当教員メールアドレス
7. 参加形態（学年、クラス、委員会、クラブ活動など）
8. 参加児童/生徒数

※メールの件名は「参加申し込み」とご記入ください。

<申し込み先>日本ユネスコ協会連盟・寺子屋リーフレット制作プロジェクト係
Eメール：terakoya-school@unesco.or.jp

プロジェクトの広報や交流手段

日本ユネスコ協会連盟Webサイト <http://unesco.or.jp/>

日本ユネスコ協会連盟フェイスブック <https://www.facebook.com/unesco.or.jp>

日本ユネスコ協会連盟とは

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の精神に共鳴した人々によって1947年、世界にさきがけて仙台で始められた民間ユネスコ運動の日本における連合体でNGO(非政府組織)です。現在全国に約280のユネスコ協会があり、さまざまな活動を行っています。日本ユネスコ協会連盟のホームページ：<http://www.unesco.or.jp/>

プロジェクトリーダー：水谷浩三（暁学園暁小学校）

サブリーダー：米田謙三（関西学院千里国際中学高校）

メンバー：6月頃、公募により募集する。

2018年度実績では、高等学校9校、中学・高等学校2校、中学校4校、小学校3校、インターナショナルスクール1校、合計19校・児童生徒1600名以上が参加した。

